平成２年度第２学期　第６週　今週の予定　・10月１日～６日

- 『児童一人ひとりが学習に集中しのめりこむ授業』をめざして
  - 授業研究会における反省，指導事項を生かした指導を進める。
  - 解決のための具体的方策にそった指導を進める。
  - 「やる気」を起こさせる導入の工夫をする。（いま，なぜ…）
- 学年経営の充実にむけて
  - 具体策を立て，学年，または，ブロック間で共通理解に基づいて指導できる体制を整える。
  - 『教育研究にかかわる研究内容の具体化』と表現への手だてを講じる。
- 授業公開の授業案作成にむけて準備を適切に計画的に
- 生徒指導の充実を
  - 校内生徒指導研究協議会での確認を基に，共通理解にたった指導を強化する。

日	曜	主な行事等	対外行事・ＰＴＡ・他

イ．研修資料等の提供　（事例略）

ウ．週案の活用と援助指導

めざす授業実践にかかる実践メモ（週案の形式変更）により，具体的実践への理解と励ましをし，授業改善への意欲を促すよう援助指導した。

③　教師の一人一人の研究教科や経験年数等に応じた援助指導（事例略）

(2)　研究の考察

研究の見通しによる援助指導の実践は「教師の意識の変容」と「考察」によって次のようにまとめた。

≪教師の意識の変容≫

1．授業の質的改善のため『めざす授業』へ向けて，それぞれ努力してきたと思われますが，結果はどうですか。（○印と選択した理由など記入）

(1)　実践への努力について	※　理　由（どんな努力）
ア．あまり努力できなかった。（6%）	・児童の実態をよくとらえた教材研究
イ，普通である。（6%）	・児童の発想を生かし，より主体的に活動させようとする工夫
ウ．努力したほうである。（88%）	・学習意欲を高める資料，教材の開発 ・課題の提示，導入の工夫 ・授業実践の記録とその累積
エ，すごく努力した。（0%）	・問題解決学習の手法 ・余裕なく教材研究が不十分で努力不足

(2)　授業の変容について（本校で研究実践を始めてから）	※変容した点
ア．ほとんど変わらない。（0%）	・児童の発想，考えを尊重し生かす配慮 ・児童相互の意見交換の場面
イ．やや変わってきた。（82%）	・思いやりのある授業の雰囲気 ・自分の考えをはっきりさせた意見発表
ウ．たいへん変わってきた。（18%）	・国際理解・交流に関する話題が豊富 ・学習形態を学習場面に応じて工夫
エ．自分ではわからない。（0%）	・導入の工夫 ・授業を改善しようとする意識の高揚 ・研究教科から他教科への移行

(3)　児童の変容について（授業への取り組み）	※変容した点
ア．ほとんど変わらない。（0%）	・積極的，意欲的な態度の取り組み ・発表しよう，話そうとする表現力

2．授業の質的改善にとって効果的だったと考えられることは何ですか。（各自の授業について，日頃の授業実践も含めて記入）

①　教材研究（自己研修）
②　授業研究の機会が多かった
③　指導・助言
④　学年・ブロック研究，協力態勢
⑤　科科部会
⑥　教師の意識変革への心がけ

3．授業の改善への難しさ，困難点，克服すべき点があるとすればど

≪考　察≫

①　研究推進委員会の企画・運営面における研修主任等へのはたらきかけ
- 研究推進委員会は，授業研究の企画，運営だけでなく，委員会内各部の活動が円滑に推進されるよう努めるが，特に，授業の質的改善への実践については校長の指導のもと，毎週定期的に教頭・教務・研修主任との協議の機会をもち進めたことは効果的であった。
- 一人数回の授業研究を実施し，常に，授業課題と課題解決のための具体策を講じさせたことは，それを日頃の授業実践に生かすことができ効果が上がった。
- 研究実践内容を吟味させることによって，「研究の基本は授業であり，その授業の質的改善が最優先である」という意識が高まり，学年・ブロック経営，教科経営の推進という視点から見直し，協働研修意欲が高まった。

②　月・週のねらい，研修資料等の提供と週案の活用
- 毎月の職員会議における「経営の視点」「経営の反省」をもとに，「週の予定」に具体化し，提示したことにより，実践意欲を高めることができた。
- 研修資料等の提供により，大きな視点から今日的な教育課題や教師の教育的感性を育てるための問いかけ働きかけをすることができた。
- 週案の活用による援助指導は，校長とともに，教務との連携を図りながら実施した結果，期待感が持たれ，実践意欲が高まり効果的であった。

③　教師一人一人の研究教科や経験年数等に応じた援助指導
- それぞれの授業課題と具体策に応じた実践について個人的な援助指導を試みたが，時間的に余裕のない中での指導になり，効果的に進められたとはいえなかった。しかし，若手教師へ教育誌等のコピーを配布したことは，期待感があり，好評であった。

6．今後の課題

(1)　授業の質的改善を図るための教頭の援助指導として上げた具体的手だてが更に，有機的に関連づけて援助指導し実践されるよう配慮する必要がある。

(2)　目的意識をもち，意欲的な研修ができるよう，教師の個性，能力，経験等に応じた援助指導ができるようにする。

(3)　若手教師への援助指導については，今後更に重視しなければならない。そのためには，できるだけその機会をもち，複数で，意図的，計画的（定期的）に指導を進める必要がある。

(4)　気軽に授業を見せ合い，相互に批評し，学びあえる姿勢，雰囲気づくりに努め，更に組織の自浄力とモラールを高める努力をする必要がある。

※　参考文献　（略）